



平成29年10月19日

中国・チベットの標高5100mの山頂に望遠鏡を設置しました

—HinOTORI プロジェクトがいよいよ実働へ—

広島大学宇宙科学センターでは平成25年(2013年)より、中国科学院国家天文台(北京)及び紫金山天文台(南京)と共同で、国家天文台阿里観測所(チベット自治区阿里地区、標高5100m)の観測適地に口径50cm望遠鏡を建設するHinOTORI(Hiroshima uNiversity Operated Tibet Optical Robotic Imager)プロジェクトを進めてきました。

このたび、9月下旬から10月上旬に掛けてドーム施設の建設を行い、10月6日には望遠鏡本体の設置工事が完了して、試験駆動に成功しました。今後、整備を進めて、来年秋には観測を開始する予定です。重力波天体やニュートリノ天体、超新星等のネットワーク型連携観測において、中央アジア地域における重要な基地として活躍する予定です。

なお、本観測所は、設置場所の標高が高いため研究者は常駐せず、本学の研究室からリモートで操作、観測を行います。

これは、科研費 新学術領域研究「重力波天体の多様な観測による宇宙物理学の新展開」A02「天体重力波の光学赤外線対応現象の探索」(2012-16年度)を主な財源として、重力波天体の追跡観測を行うことを目的として設置されたものです。



【お問い合わせ先】

広島大学 宇宙科学センター 特任助教 内海洋輔

TEL: 082-424-6278 E-mail: youtsumi@hiroshima-u.ac.jp

広島大学 宇宙科学センター長 教授 川端弘治

TEL: 082-424-7371 E-mail: kawabtkj@hiroshima-u.ac.jp